



ドーム型図書館のある緑豊かなキャンパス

Info

学校情報

取得可能な学位	修士(国際地域学)	定員	10人
学費	入学金14万1,000円(県内者※)、28万2,000円(県内者以外の者) 授業料53万5,800円(年間) ※本人またはその配偶者もしくは1親等の親族が、入学する日の1年以上前から引き続いて新潟県内に居住している(住民票がある)者 〒950-8680 新潟県新潟市東区海老ヶ瀬471 ☎025-270-1300		

資料請求はこちら！



北東アジアの専門的知見や研究を深化

新潟県立大学大学院国際地域学研究科は、現代社会が直面する課題に対して「国際」と「地域」の視点から、学術と実践の両面で貢献できる高度専門人材の育成を目指している。国際地域学に関する深い知見と高い英語運用能力を兼ね備えた、国際社会で活躍できる人材の輩出を目的としており、出身地や国籍を問わず、意欲ある学生を国内外から広く受け入れている。

世界各地で研究・教育に携わってきた国際性豊かな教授陣が結集し、少人数制教育で学生たちの研究を支えている。また、2026年度からは、北東アジア研究所の教員が授業に加え、研究指導も担当する。これにより、北東アジアに関する専門的な知見をより深く学び、研究を深化させる機会が提供される。

共同研究室には院生一人ひとりの机が設置され、土日を含め24時間365日開放されている。学生同士が切磋琢磨できる環境が整っており、互いの交流も活発である。

三つの学問領域で構成

本プログラムは「国際政治・国際関係研究科」「国際経済・国際開発研究科」「北東アジア研究科」という三つの学問領域から成り立っている。国際政治・国際関係研究科目では、国際政治、国際関係研究するための基本的な概念や理論に加えて、現実の国際問題および政策的課

題分析への応用を学ぶ。国際経済・国際開発研究科目では、国際経済や国・地域の経済成長、開発課題を分析するための理論や応用を学ぶ。北東アジア研究科目では、北東アジア地域全体および域内各国（ロシア、中国、朝鮮半島、モンゴル）における諸課題に関する知識や分析手法を、経済、社会、政治といった多角的視点から学ぶ。

さらに、こうした科目群を横断する「研究基礎科目」を配置し、研究において必要となる知識や理論の習得、統計データの処理や分析の技法を身につける。また、国際的なコミュニケーション能力を養うため、大多數の授業を英語で開講している。立命館アジア太平洋大学大学院の国際開発などの授業（英語）をオンラインで履修し、本研究科の修了単位とすることも可能だ。

社会人が通いやすい制度も

当研究科には学部から進学した院生のほか、留学生や企業・自治体から派遣された院生など、さまざまなバックグラウンドの学生が在籍している。夜間と週末の授業実施や長期履修制度（2年間の授業料で3年間にわたって履修、課程を修了する制度）など、社会人でも通いやすい仕組みがある。選抜区分は推薦入試・一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜と4種類あるため、自分に合った入試方法で挑んでほしい。

Voice 学生の声



国際地域学研究科 国際地域学専攻 2年

久保 実 さん
Kubo Minoru

【出身地】

新潟県

【力を入れていること】

修士論文

国際交流団体でのボランティア活動

他研究のリサーチアシスタント

【好きな国や地域】

韓国、台湾、中国

Q 大学院選びのポイント？

A 東アジア理解を深めたい
韓国留学が契機に

中央大学4年のときに、半年間韓国に留学したのをきっかけに、日韓関係や東アジアへの関心が高まりました。よりマクロな視点から東アジアを学びたいと思い、大学院進学を決めました。北東アジア研究所があること、また出身が新潟だったことも決め手となりました。

Q 大学院の魅力は？

A きめ細かな教員の指導と
学生同士の活発な交流

少人数の授業のため先生との距離が近く、修士論文などの相談にも熱心に応じてもらえます。学生同士の意見交換も活発に行われており、自分の所属するゼミでは、ほかの学生から研究に関するアドバイスをもらえる点も魅力です。自分の研究を深めるうえで、大きな刺激になっています。

Q おすすめの授業は？

A 東アジア地域の国々への
理解を深める

東アジアの国々の政治の現状を比較し、国際的な視点で国内政治を考えることができる「比較政治論」や「リンゲージ政治論」を履修しました。理論的な部分を理解したうえで、各国家の政治について事例を用いつつ学ぶことができ、自分の研究に役立つ学びを得ることができました。

Q 研究テーマは？

A 年々増加する在日外国人の
多文化共生など

新潟に住んでいる外国人の方々に日本の移民政策について意見をうかがい、それをもとに研究を進めたいです。新潟でも東南アジアや東アジアからの外国人が年々増えていると実感しており、地域社会の変化や多文化共生の在り方を考えるなかで、研究テーマとして強く関心を持つようになりました。

Q 今後の進路は？

A 国際色豊かな経験を武器に
海外勤務を志望

グローバルに事業を展開している企業を志望しています。なかでも韓国や中国をはじめとした東アジアに支社のある会社を中心に企業を検討しています。ここでの学びを活かして、国ごとの文化や価値観の違いを乗り越えていきたいです。そして日本で経験を積んだ後は海外で働きたいと考えています。



韓国留学の際に参加した日中韓フォーラムの様子

Voice 先生の声



国際地域学研究科
教授

伊藤 晋先生

国際協力を広く学べる環境で、多様性と実践力を育む

国際開発政策、開発金融、東南アジア経済を専門に、国際協力機構（JICA）で30年以上にわたる国際開発に従事していました。本学には多様な学問的バックグラウンドを持つ学生が在籍し、社会人学生や留学生も多いため、多様性が学びの刺激となり、活力につながっています。教員の国際性も豊かで、英語によ

る修士取得が可能である点も大きな魅力です。途上国の開発課題を理解するためには、国際政治・経済・国際関係の観点から広く国際協力を学ぶことが不可欠であり、本学には学びを支える環境が整っています。ここでの経験を糧に、グローバルにもローカルにも活躍されることを期待しています。